

平成 30 年 9 月 5 日

2018 奈良県立医科大学・和歌山県立医科大学  
学生災害ボランティアバス 復興支援活動  
活動報告書

N A R A W i l l  
奈良県立医科大学  
学生災害ボランティアグループ

### 1. 活動概要

奈良県立医科大学学生 11 名は、和歌山県立医科大学学生 9 名とともに、平成 30 年 8 月 21 日（火）から 8 月 24 日（金）の 4 日間、福島県と宮城県においてボランティア活動などを行った。宮城県石巻市では、石巻赤十字病院にて震災当時の状況や災害に対する備えについての講義を受け、同市と隣接する女川町の視察を行った。福島県では帰宅困難地域の視察の後、南相馬市観光協会のボランティアガイドの案内で原町区・鹿島区・小高区を回り、被災地を視察した。南相馬市小高区では被災者宅の竹林の伐採等の力仕事ボランティアを、南相馬市鹿島区ではサポートセンターでの傾聴ボランティア活動を行った。また、南相馬市立総合病院での及川院長先生の講演を通じて、福島の現状や震災当時の状況、住民の健康問題、放射線などについて学んだ。

### 2. 主な活動

21 日（火）	朝：飛行機にて伊丹空港から仙台空港へ移動 午前：石巻赤十字病院で講義を受講（石巻市） 午後：同病院職員の方の案内で被災地視察（石巻市・女川町）
22 日（水）	午前：帰宅困難地域の視察（浪江町・双葉町・大熊町・富岡町） 午後：南相馬市観光協会ボランティアガイドの方と視察
23 日（木）	日中：力仕事ボランティア活動（南相馬市小高区） 夕方：及川院長による講義（南相馬市立総合病院）
24 日（金）	日中：サポートセンターでの傾聴活動（南相馬市鹿島区） 夕方：飛行機にて仙台空港から伊丹空港へ移動

### 3. 参加学生

医学科4年 田中俊志

医学科1年 北川智博

看護学科4年 井上麻理子、森岡伸子、浜村志保

看護学科3年 阿部彩乃

看護学科1年 尾籠七海、中山実樹、堀田真悠、堀江周、山本彩乃

### 4. 石巻赤十字病院での講義

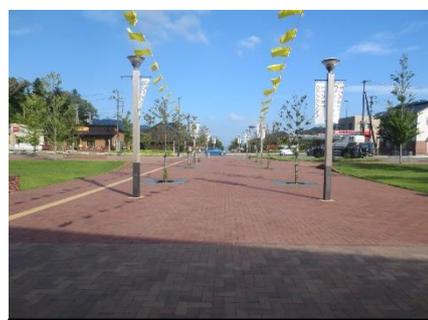
石巻市にある石巻赤十字病院にて講演をしていただいた後病院見学をさせていただいた。講演では、震災当時の様子や普段の災害時の対応の訓練についてなどに関して講演していただいた。講演を通して、改めて震災時の対応の訓練の必要性を感じた。奈良医大でも行っているが、やはり危機感が薄いのが実際であると思う。また、病院内のコンビニエンスストアの店員など外部の従業者も一緒に訓練を行っていることが印象的だった。一部の人間が行うのではなく、病院全体で行うことで実際に起こったときの迅速な対応に繋がるのではないかと感じた。



石巻赤十字病院において講義を受講する様子

### 5. 宮城県被災地域の視察

日本でも数少ない災害医療コーディネーターの方と共に石巻市、女川町と順に視察した。両自治体、復興に向けて地域の活性化を図ろうとしているものの、そのやり方に復興に対する意識の違いが感じられた。震災直後から復旧が進められた石巻市に対して、女川町では5年かけて盛り土でかさ上げされた土地に全く新しい町が作られ、駅前には商店街が立ち並び、復興に向けて着々と歩みを進めていた。しかし、現状、客は数えられる程度しかおらず、栄えているとは言い難い状況であった。完全な復興に向けて、それぞれの自治体に応じた課題が残されていると思われる。



女川駅前に開業したばかりの商店街。

## 6. 帰宅困難地域の視察

今回、我々は昨年秋にようやく通行のみ許可された国道114号と、国道6号から、帰宅困難地域が現在どのような状況になっているのかを視察した。

帰宅困難地域の入り口では、警官が張り込んでおり、侵入防止のためのフェンスが道路の分岐点や家屋の入り口に設置されていた。工事用車両がたくさん通り、たくさんの除染で出た汚染土を運んでいた。帰宅困難地域とすでに帰還が始まっている地域のもっとも大きな違いは、その地域の状況が7年もの間全く変わっていないことだと感じた。

確かに、通行が許可されたということはそれだけ線量が下がってきたということだが、それは除染の結果ではなく、半減期が来ることによって自然に下がってきたものだ。帰宅困難地域では、新しく建物を建てることはおろか、ようやく現在除染が行われている状況にあるのだ。これでは、復興が進むはずもなく、実際に帰還する人口はますます少なくなっていくのだろうと感じた。

今回、実際に視察してみてもっとも強く感じたのは、放射線災害の影響が非常に多岐にわたっており、解決するのは困難であること、そしてそれでも解決に向けて未来への努力を怠らない人がいるということである。



車窓からみた帰宅困難地域の様子。フェンスが作られ立ち入れないように管理されている。

## 7. 南相馬市での被災地視察

2日目の午後からは南相馬市観光協会のボランティアガイドの方と共に南相馬市を視察した。実際に震災を経験した人から話を聞くことによって、目で見ただけでは分からない、当時の状況が思い起こされた。

「ここには元々何軒の家があったけど全て流された」  
「ここに逃げた人は助かった」などの話に衝撃を受けた。また、町全体に高齢者が多い印象を受けた。ガイドの方も子供が少なくなっていると話されていた。町が震災以前の活気を取り戻すには、若者が町に戻らなければ

ならないと感じた一方で、避難先で新たな生活を始めた若者達が戻ってくるのは難しいのではないかと感じた。震災を風化させないためにも、語り継ぐことの大切さを感じた。



ガイドの方から南相馬市防災センターにて説明を受けている様子。

## 8. 力仕事ボランティア

今回の力仕事ボランティアは、南相馬市小高区で、家屋が竹で壊れないようにする目的で、竹林の伐採を行った。作業は、2つのグループに分かれて行った。ひと班は、ベテランのボランティアの方に伐採していただいた竹の枝の切り落としを、もうひと班は、その竹を焼却場に引き取ってもらえるように、のこぎりで短く切り、半分に割った。

約6時間、総勢22名で作業を行ない、20本の竹を伐採したが、7年間放置されていた竹林全ての伐採にはまだまだ至らない状態であった。そのような状態から、震災から7年経った今でも、もっとたくさんのボランティアの手助けが必要で、避難指示を解除されても、震災前のもとの生活に戻るには多くの課題があると感じたボランティア活動だった。また、震災の風化に伴いボランティアが不足している現状に、継続的な支援の重要性を感じた。



伐採した竹を焼却できるように短く切りそろえる作業をする様子。

## 9. 南相馬市立総合病院院長 及川友好先生の講演

震災当時の状況と、震災によって生活が変わり健康にどのような影響を与えたのか、それに対する支援などについての説明をスライドで受けた。多くの病院が機能しなくなる中で、南相馬市立総合病院は震災直後も役目を果たし被災地を支えた。震災後、放射線の影響により避難する方がたくさんいた中で、及川先生は病院に残り多くの患者さんを守ってこられた。及川先生の講義を受けて、被災地の今、そして医療について改めて考えることができた。



南相馬市立総合病院院長 及川友好先生の講演の様子

## 10. サポートセンターでの傾聴活動

福島県南相馬市鹿島区のサポートセンターで傾聴活動を行った。このサポートセンターは、介護認定を受けていない高齢者の方々が利用していた。利用者の中には依然として仮設住宅に住まれている方もいらっしゃった。午前中はアロママッサージや血圧測定をしながら、学生が個々に利用者の方々と交流した。午後からは、全員が参加してクイズ大会やビンゴ大会を行った。特に、昭和を思い出す写真が印刷されたシートを用いたビンゴ大会は、大いに盛り上がりたくさんの笑顔が見られた。お話をすることで、震災の記憶や寂しさを感じることもあったが、前向きに生活されている方が多いように感じた。



サポートセンターでの傾聴活動の様子。アロママッサージや血圧測定を交えながら交流を深めている。

## 11. 全体を通して

今回は初めて福島県以外での視察や講義を含めた日程となった。津波災害だけの宮城県と放射線災害であった福島県を見ることで、福島の放射線災害の特殊性が浮き彫りになり震災への理解が深まったと感じた。また、石巻赤十字病院と南相馬市立総合病院において、両地域での医療者として直面した状況を学べたことも、災害時の医療人としての課題をより深く理解する助けになったと感じた。

福島県での被災地域の視察では、初参加者と複数回参加しているメンバーとの間で違う視点や気づきが得られた。振り返りの中では、初参加者からは、予想以上に復興が進んでおらず、まだまだ放射線災害は続いていることに驚く意見が多くみられた。一方何度も参加している参加者からは、やっと 7 年ですべての地域で除染作業ができるようになってきていることなどに 7 年で進んだ復興に目を向ける意見や、避難指示の解除の時期の違いなどでの地域による住民の戻り方の差に復興への課題を感じる意見などが出された。また、実際に被災されたボランティアガイドの方から話を聞いたことも、7 年たち当時の状況が想像しにくくなる中震災を感じてもらおう助けになった。

今回、西日本の豪雨災害や大阪府北部での地震など近くでも災害が起きる中、関西から東北に行くことにグループとして疑問を持つメンバーもいたが、力仕事ボランティアや視察を通じて、改めて放射線災害の息の長い支援を必要とする特殊性を感じ、他の災害の裏で福島の災害への認識が風化している状況に、このことを伝えていきたいという意見が多く出された。

震災直後から継続して福島でボランティア活動を行っているグループとして、今後も継続して支援を続けていくのはもちろんだが、今後視察を通して得た被災地域の現状を広く発信していく活動も検討していきたい。

## 12. 協力

石巻赤十字病院災害医療研修センター

南相馬市立総合病院

南相馬市ボランティアセンター「NPO法人 災害復興支援ボランティアネット」

南相馬市観光協会

南相馬市高齢者等サポートセンター 希望

農家民宿いちばん星

宮城県青年会館 エスポールみやぎ